

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100511		
法人名	有限会社 ヤマギシ企画		
事業所名	グループホーム入江 (1階)		
所在地	釧路市入江町8番29号		
自己評価作成日	平成29年2月22日	評価結果市町村受理日	平成 29 年4月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100511-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成29年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

どんな認知症でも、軽度の方から重度の方まで支援できるようにケアの質を高めると共に、今看取り難民が140万人になるという時代です。社会的使命感をもって、希望する本人、家族に対してホームでの看取りを増やしていきたい。自分又は自分の家族が認知症になっても入所したくなるようなホームを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社、事務所、病院、高齢者住宅、一般住宅が混在する産業地域に位置し、近くには自然豊かな公園がある。産業道路に面し交通量が多いが、事業所の中に車の音は聞こえない構造になっている。職員も利用者も明るく、家族と利用者、地域の絆を大切に、事業所理念を職員皆が共有し、利用者は、ゆったり、のんびり、思い思いに暮らしている。利用者は町内会の行事(焼肉等)、小学校の行事に参加したり、シルバー作品展に出展して地域と交流している。事業所の夏祭りには多数の地域住民、ボランティア、高齢者住宅利用者が参加する等交流がある。高校生のインターンシップを受け入れたり、ボランティア(小学生、民謡・歌・踊り等)が来訪して交流している。運営者は、職員の育成にも力を入れ、研修参加を職員に促し、より質の高いケアに努めている。看取りの経験も豊富で今までに15人の看取りをしている。医療連携も良く訪問診療(月2回)、訪問看護(月2回)や連携医療機関(内科、皮膚科、精神科、訪問歯科)等で通院しないで適切な診療を受けられるように支援している。地域住民は運営推進会議や災害訓練にも参加し連携している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 グループホーム入江（1階）	地域の方と一緒に行事に参加したり、認知症カフェなど実施しているが、まだまだ実践に繋がっていない。毎月のフロア会議で皆で理念を唱和しています。3分の2ぐらいできている。またホーム運営、ケア方法など迷った時は理念に戻るよう心掛けている。	毎月のフロア会議の中で唱和をしている。職員と管理者は理念にある「ゆったり・のんびり・思いおもいに暮らす」を共有し日々の実践に繋がっている。	事業所理念を職員全員で見直し、話し合いを重ね新しく作りかえる予定がある。作り上げた理念を共有し実践に繋げることを期待したい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事参加。総会参加、ホーム避難訓練に町内会参加。当ホーム夏祭りに町内の人参加。小学校との交流など行っている。町内会との繋がりがあ。推進会議の終了のたびに町内会役員から、出席するたびに勉強になると感謝されている。	町内会に加入し行事(清掃、焼肉会、総会)には利用も一緒に参加している。小学生が年2回訪問している。高校生のインターンシップを受入れ、事業所の夏祭りには地域住民やボランティア等の参加がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ、運営推進会議などで、介護保険、認知症、福祉関係の話題を取り上げ交流している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では必ず外部評価を皆で閲覧して、話し合いをしている。ほぼされていると思います。地域包括センター、町内会、家族会等と定期的に会合を持っている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、町内会長、副会長、家族などが参加して定期的に行っている。事業所からは利用者の現状説明や事業所の行事報告、事故報告、外部評価等を話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携を密にしなが、不明や不具合のないように運営しています。市役所担当者とは、顔の見える交流をしており、お互いに気軽に声を掛け合っている。	管理者が市の担当者と会い日常の連携で情報交換をしながら協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修・外部研修を含めて身体拘束・虐待にはいつも関心を持って働いております。取り組んでいると思います。介護の学校で学び、理解し、取り組んでいる。玄関にセンサーはついていますが、夜間以外は施錠はせず、利用者は思い思いに自由に活動できている。緊急の場合はやむを得ない場合がありますが、例外ケース、条件を皆把握しています。	外部研修、社内研修を行い拘束廃止について職員は理解をしている。スピーチロックには気をつけ身体拘束や言葉遣いに気をつけ日々のケアに取り組んでいる。施錠は夜間のみである。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めている。現場や介護の学校や研修等で学ぶ機会が多く、防止に努めている。昨年は日高のGHで虐待がテレビ放映され、すぐ全社で虐待に関して社内研修を開きました。			

グループホーム入江（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人さんがよく来所するので、日常の様子など詳しく報告している。ホームの利用者も活用しているお方がおられる。身寄りのない方の入所の際は十分に検討して後見制度を利用できるように心懸けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長、管理者が行っている。開設時より14年の現在まで、トラブル事なく行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんが、外部に連絡を取りたいときは、要望に応えている。家族会、重要なホームイベントにはできるだけ多数の家族に参加してもらい、要望、意見を承っている。	日常の会話などから利用者の要望の把握に努め、家族会の場や家族が来訪した時にコミュニケーションをとり意見や要望を聞いて運営に反映させるよう努めている。意見の受けつけの場所を掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映して下さっている。毎月のフロア会議で行っている。そこで意見交換の機会を設けています。	会議の中で職員1人ひとりから意見を貰っている。日常業務の中でも意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ職員の意見を尊重して行っております。毎日釧路市の福祉の募集広告を閲覧して、当社の待遇が釧路市の標準以上になるように心がけております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多数の研修を開催、参加しやすいように、就業時間や手当時給等配慮している。研修は数多く参加させてくれている。機会が在るごとに研修に参加できるように進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協の研修で多数の職員が他GH職員と友人、懇意になっている。		

グループホーム入江（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを取りながら、馴染みの関係を築くように努めている。信頼関係を築き上げる様努めているが、力不足でありできていないのが現状です。傾聴に心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的の様子をお知らせして傾聴しながら行っています。グループホームの支援は利用者だけでなく、家族の支援も必要である事を認識しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHIに入所すると、他の介護保険サービスは全額負担になるので、どうしても積極的なおしらせはしないで、重要で必要なサービスはお知らせするようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除などできる事はお手伝い頂き一緒に行っている。本人の状況に合わせた対応をしている。信頼関係の構築に力を入れている。認知症介護は馴染みの関係が重要です。いかに自分が信頼されている存在になる事が出来るかで、今後重篤になった時の介護が出来るかがかかって参ります。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と電話等で連絡を密にしている。ご家族の方と話す機会があまりない。家族と本人の要望をくみ取り共に支えている。特変があった時は、小さい事でも家族に連絡しています。利用者さんの変化に応じてご家族にお知らせして、良い方法を考えてケアしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も在宅時の宗教を継続している方もいる。昔住んでいた所に行ったり馴染みの深い人にあたりなど、外出時に支援しています。来所された時、お茶をだし、近況報告などとして交流しております。	在宅時と同じように宗教関係者が来たり出かけたりしている。昔住んでいた場所に行くと馴染みの人に会ったりしている。理美容に家族と行ったり訪問理美容を利用する人がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。食卓テーブルで近い者同士がグループ化している。今までうまくできていないので努力していきたい。利用者同士がお互いに周りを見て助け合いが出来ている。食事の席は認知症の重篤度によってトラブルが生じないように、考慮して決めている。		

グループホーム入江（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した家族が訪問した時も以前とかわらぬ対応をしている。退所後もホームを訪問してくれる方が少ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きな事、やりたいことなどを傾聴して、できる範囲で支援する事が出来ている。年に一度の温泉旅行では、都合の悪く参加できなかった人には個々に自分の行きたいところへ同行するようにしている。	日常生活の中で好きな事、やりたい事を聞いている。できる範囲で支援を行っている。言葉の出ない利用者には家族から話を聞いて本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を見たり、話を傾聴したりして、把握に努めている。個人の過去歴は今後の認知症ケアで重要なので各職員把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に自由な時間で過ごす事ができている。顔つきや声のトーンを見極め、接している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に無理のない課題や目標を決め職員全員モニタリングに参加している。定期の会議の他に、その都度、心身に変化が見られた場合、カンファレンスを行っている。	全職員でカンファレンスやモニタリングを行い、利用者、家族の意向を反映させ、現状に即した介護計画を作成している。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を毎日つけている。連絡ノートやミーティングなどで話し合う事が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて提供する事を変え、柔軟に支援する事が出来ている。日々変化の様子を見て、家族にお知らせ、対応しています。現在共用デイを行っており、グループホームにおりながら、デイサービスも経験でき、多様な経験ができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、ボランティアによるいろいろな催し物で支援している。踊り、歌、楽器演奏、手品など多様な趣味、趣向に応えられるよう、運営している。安心して暮らせるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が対応できない時はホームで対応している。訪問診療医、内科、皮膚科、精神科、訪問歯科医、訪問看護師等と契約しており、長時間かかる急性期の大病院に通院しなくても支障がないようになっている。	家族が対応しているが要望に応じて事業所も対応している。訪問診療(月2回)訪問看護(月2回)や連携医療機関(内科・皮膚科・精神科・訪問歯科医)等で通院をしなくて適切な診療を受けられるように支援を行っている。	

グループホーム入江（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	便秘の際、支援してもらう。水分、排泄、体調など記入し訪看の方に状況を説明した上で受診を受けることができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	対応している。常に気を付けるよう、心懸けているがこれからも気を付けていきたい。周りの人や言葉かけに注意して接する事が出来ている。長い入院は認知症が悪化するの、特に退院の受け入れ可能状況をお知らせしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療、ホーム、本人・家族で同意書を交わしている。今まで15人看取っています。ホームとして職員全員で協力して看取りに取り組んでいる。	契約時に終末期について事業所の方針を家族と利用者に説明している。利用者の状態を見ながら早い段階から家族や訪問医・事業所と話し合い、地域の医療関係者と共に職員全員で看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を受講しているが、急変時の対応を身につけるには、まだまだ、経験と技術が不足しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には町内会の人の参加もあり、職員の連絡網も事務所に貼付してあります。避難訓練は年2回おこなっている。安心するには、まだまだ、訓練が必要だと思えます。	年2回避難訓練を行っている。消防署職員立ち合いの下訓練を行っている。1回は夜間想定を入れて訓練を行い地域住民や家族会と利用者も一緒に参加をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。常に気を付けるよう、心懸けているがこれからも気を付けていきたい。周りの人や言葉かけに注意して接する事が出来ている。尊厳を大切に、相手をリスペクトするのが当社の理念ですが、実際に、厳しく、実行するのは想像以上に難しいです。	利用者の尊厳を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応をしている。特にスピーチロックには気をつけながら支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に強制的にならないように、本人の意思を大事にして支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちら側の都合によりできない時もあるが希望に沿った支援をしていきたい。本人のやりたいことを尊重してできることを支援している。誕生日でも個々の希望に沿うよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お誕生会や外出の際オシャレして出かけている。好きな服を選んで頂き、髪型も自分でセットして貰っている。訪問理容を利用している。希望者には髪染め等も行っている。		

グループホーム入江（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けの手伝いをしてもらったり、料理のリクエストを聴いている。特定の利用者さんにしかできていない。台拭きから下膳まで、出来る人に行っている。出来る人に行っている。外食を支援したり行事食を作り皆で楽しく食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを毎日行って、それをいかして支援している。支援できている。個人の運動量や体重増加を考え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	している。朝食後、夕食後はしているが、昼食後はしていない。訪問歯科の口腔ケアを実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に対応して、行っている。自立支援を念頭に職員全員で排泄方法を検討してケアに生かしております。	個々の排泄パターンを把握し支援を行っている。オムツからトレパンに変わりパットや排便のチェック等を行いながらトイレ排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表をつけ、対応しています。食べ物の量、種類、下剤の種類、量、運動、マッサージなど個々にみんなで検討して、支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全て本人の希望にそった支援はできていないが、1番風呂が好きな方には最初に入って貰うよう努めている。週2～3回。体調等を考え行っています。1度午前中でも入浴できるよう体制をとったが、午前中に入りたい人がいなくて取りやめになりました。しかし利用者が入浴したい時間を望めば、対応するような体制を作ります。	週2～3回を目途に支援を行っている。入浴剤数種類を用意して利用者の好みの入浴剤入れている。出来るだけ希望やタイミングに合わせて楽しく入浴出来るように支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のタイミングで居室と居間を行ききしてもらっています。本人の自由意思を尊重して支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無いよう、研修、打ち合わせを行い、十分注意して行っている。個々が使用している薬の詳細までは完全に理解している人は少ない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	デイサービスで、自分の好みの活動を行ったり、買い物、行きたい所など要望を聞いて、出来る事はかなえる様に支援しています。		

グループホーム入江（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。年賀状など、掃除、茶碗拭き、利用者の要望するもの、冬場は室内レク、夏場は外出の機会を多くしています。	散歩や買い物等の外、普段行けない所には利用者1人ひとりに個別対応をしている。職員と映画に行ったり、パチンコに行く人、昔住んでいた所の食堂等に行ったりと希望を聞いて出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する人には、家族の許可を得て少額を持っている人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望めば、支援するようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が在るところには、椅子を置いて居間以外でも利用者同士が交流する場をもうけている。また3月3日近くは居間にお雛様を飾ったりして季節感を出している。	共有空間は匂い・音の大きさ等に配慮し、居間や廊下の壁に行事の写真や季節ごとの飾り付け等で生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過せるように工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	している。狭いが空間のとれる廊下の端などに椅子を置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に自分が使っていた馴染みの家具を持参下さいとお願いしても、わざわざ買ってくる方達が最近が多い。	居室にクローゼットが設置されベットと反対側に馴染みの家具等を置いている。地震の多い地区なので上から物が落ちてこない様に特に工夫がされている。仏壇やテーブル、テレビまた馴染みの小物があり壁には家族の写真等が飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室内の拭き掃除、洗濯物たたみ、茶碗拭き等手伝っていただいている。個々の方に自分の役割を持てるよう支援しています。		